

地域医療連携だより

# かまんざ

## 専門性の高い11職種による IBDチームを結成

| 新年のごあいさつ…2

院長 小林 裕

地域医療連携・入退院支援室 室長 副院長 魚嶋 伸彦

| 特集

人工股関節置換手術支援ロボット「ROSA® Hip」を導入しました…3

| Red Crossニュース

スクラムを組む医療従事者たちVol.4 IBDチーム…4

| トピックス…6

症例検討会を実施しました

緩和外来で紹介患者さんの受け入れを開始しました

当日紹介・予約・診療に関するお問い合わせ

地域医療連携係  TEL 075-212-6186

平日 8:30~19:30  
土曜日 9:00~13:00

# 新年のごあいさつ

## 地域医療連携を強め、コロナ下でも質の高い診療を提供していきます



院長  
小林 裕

新年あけましておめでとうございます。皆様には2023年、よいお正月を迎えられたこととお喜び申し上げます。

新型コロナウイルス感染が発生して3年になりました。原稿を書いている12月中旬は第8波到来で新規感染患者さんが徐々に増多しつつある状況です。政府はコロナ感染症を第5類へ変更することも視野に検討を始めました。社会全体がウィズコロナで、経済活動もしながら、コロナ診療が一般診療の一つとしての位置づけになれば、と思います。

さて、当院は近年、ナビゲーションや支援ロボットを導入し

た整形外科の関節手術、遅ればせながら手術支援ロボット・ダヴィンチによる泌尿器科、呼吸器外科や大腸を中心とした外科の手術、MRI撮影および超音波検査融合画像に基づく前立腺針生検など、最新機器を導入した医療技術の質の向上を図ってきました。また今後、ウィズコロナ下で診療の質と量をどう担保するか、今後も状況に応じ臨機応変な対応を心がけたいと思っています。外来診療は極力専門特殊外来に限定し、救急医療、がん診療や特殊専門医療の高度急性期、急性期に特化した入院医療に注力し、かかりつけ医さんをはじめ、地域の医療機関さんとさらに連携を強めていきたいと考えています。

この地で引き続き当院の理念である「歩み入る人にやすらぎを 帰りゆく人に幸せを」を達成すべく、「安全で質の高い医療を継続して提供」するために、新病院建設も視野に、地域での当院の役割を果たしていきたいと考えていますので、引き続きよろしくお願いいたします。

## きめ細かな情報配信と懇話会で医療連携を深めていきます



地域医療連携・  
入退院支援室 室長  
副院長  
魚嶋 伸彦

2023年の年始にあたりご挨拶申し上げます。

2019年12月初旬の中国の武漢市での1例目の感染者の報告から瞬く間に世界的な流行となった新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に翻弄され既に3年が経過しました。この未曾有の感染症パンデミック下においても地域の先生方から多くのご支援をいただきました。特に2022年になって紹介患者数もコロナ禍前に迫るレベルまで急速に回復傾向を示しています。誠に有難うございます。

2022年、地域医療連携・入退院支援室としては、地域の先生方・医療機関様との情報共有、医療連携の強化に取り組んでまいりました。情報共有の試みとして、当院ホームページに地域連携ニュース欄やこの「かまんざ」誌を閲覧できる欄を新設し、新たな情報がある際にはタイムリーに号外も別途発行しました。また医療情報サイト「m3.com」に最新の医療情報の掲載を開始しまし

た。さらにこれらに記事に容易にアクセスしていただけるように、登録医の先生方には記事のURLも添付したメールニュースを毎月直接配信させていただいています。2023年も引き続き積極的な情報発信を実施しますので、是非最新記事をチェックしていただければと思います。

一方、2022年夏に開催しました病病・病診連携懇話会においてもご指摘いただきました紹介患者様の予約取得の円滑化、当日緊急受診依頼の応需回答の時間短縮にも取り組んでいます。地域予約枠の全診療科における設置、緊急診察依頼時の病床確認・手術枠確認の円滑化、診療科内の連絡体制の見直しなどを実施し、より迅速な応需の体制を構築するよう努力しております。さらに返書の記載漏れのチェック体制を強化し、当然のことではありますが、100%の返書を送付させていただくよう取り組んでいます。

また昨年より開催させていただいています各医師会様との症例検討会を今年度も開催します。充実した意義ある検討会になりますように各診療科ともに工夫していますので、多くの先生方のご参加をお待ちしています。

以上のような取り組みを通して2023年も地域連携をさらに深めさせていただきたく存じます。これまで以上にご指導・ご支援をいただきますようお願い申し上げます。





近畿初

人工股関節置換手術  
支援ロボット

ROSA<sup>®</sup> Hip

を導入しました

第2整形外科

部長 福井 康人



2022年10月に日本で人工股関節置換手術支援ロボット ROSA<sup>®</sup> Hip (ロザ・ヒップ) が認可され、当院では2022年11月8日からROSA<sup>®</sup> Hipを使用して人工股関節置換術を開始しています(保険適用)。国内での使用は3施設目で近畿では最初の導入施設です。

手術はロボットがするのではなく、術者が行い、ロボットは術者の手術をサポートします。ROSA<sup>®</sup> Hipは仰臥位手術で使用するため、当院で行っている最小侵襲手術(MIS)である仰臥位前外側進入法で手術が行えます。

ROSA<sup>®</sup> Hipの特長は手術中にカップの設置角度を、ロボットアームのアシストにより1度単位で調節して設置できます。また、手術中に1mm単位で脚延長量、オフセット量を数値化するため、患者さん一人ひとりに対して最適なインプラントを選択して脚長を補正することが可能です。このシステムは人工膝関節置換術用の手術支援ロボットROSA<sup>®</sup> Kneeとしても使用できるため、人工膝関節置換術にも使用を開始しています。

股関節、膝関節の痛みがあり、手術を考えている患者さまがおられましたら、ご遠慮なくお問い合わせください。

## IBD チーム

消化器内科では、幅広い臓器と疾患に対応しております。  
今回は、その中でもIBD (Inflammatory Bowel Disease、炎症性腸疾患) と  
チーム医療についてご紹介します。



### 11職種からなるIBDチーム

IBDは原因不明の難治性疾患であり、潰瘍性大腸炎、クローン病が2大疾患となっています。その特徴として、①若年発症することが多い、②疾患・生活面いづれもプロブレムが多彩、ということが挙げられ、主治医1人の力で患者さんの多種多様なニーズに対して十分な対応をすることは時に困難な場面があります。

一方で、多職種からなるチーム医療は、IBD領域において必要性が指摘されていながら、本邦においては現実には十分な活動ができていたとは言えません。

そこで当院では、2021年8月に11職種(医師・看護師・薬剤師・管理栄養士・社会福祉士・公認心理師・生理検査技師・放射線技師・臨床工学技士・医事課会計・医師事務)からなる「IBDチーム医療勉強会」を立ち上げました。

### 多職種連携で正確な治療方針を見いだす

月一度の定例カンファレンスにおいては、レクチャーおよび症例の共有を中心に活動しています。症例の共有では病態や薬剤といった知識の伝達だけではなく生活背景についても触れ、疾患だけではなく側面から議論を行っています。

また外来診療においては、患者さんの隠れたニーズを掘り起こし、専門職種によるケアにつなげることを目的とした外来問診システムの構築を進めています。複数の職種が時間をかけてケアに関わることで、診察室では主治医が聞き出せなかった生活上の重要な情報を聞くことができ、治療方針に影響することもしばしば経験しています。

「IBDチーム」は本年度から病院の正式な認可を受け、活動の幅をさらに広げております。これからもIBDチームは「IBD患者さんの幸せに貢献する」をコンセプトに、地域の患者さんたちに質の高い医療を提供してまいります。

当院では、院内の多職種と連携し、職員がチーム一丸となって患者さんに最適な医療を提供しています。  
このコーナーではリレー形式で各部・室の現状について語っていただきます。

## 11職種によるIBDチーム



## 各職種の高い専門性

外来医師・病棟看護師	ゲートキーパー(窓口、調整)、内視鏡検査	生理検査技師	腸管超音波検査
化学療法室看護師	インフュージョン、ベドリズムブなどの点滴薬物療法	放射線技師	小腸MRI、小腸透視
薬剤師	服薬指導、内服遵守、副作用・相互作用のチェック	臨床工学技士	血球吸着療法
管理栄養士	食事・栄養指導	医事課会計	医療費助成制度、生命保険などの事務手続き
社会福祉士	就学・就労支援	医師事務	臨床個人調査票・患者データベースの作成支援
公認心理師	抑うつ、不安などの精神的支援		

## コラム 「CCJAPAN」12月号に掲載されました

炎症性腸疾患患者さん向けの生活情報誌「CCJAPAN(シーシージャパン)」に、IBDチームが取材を受け掲載されました。

本誌は病気になったばかりの患者さんには「分かりやすく」、10年以上罹患している患者さんには「真に役立つ」最新の情報を提供しています。病気を抱えながら受験や就職、恋愛や結婚・出産など、人生の重大イベントとどうやって付き合っていくのかを毎月特集。いま話題の分子標的治療や小腸カメラの情報なども提供しています。日進月歩するIBDの医療知識を平易に解説するため、患者さんだけでなく医師、栄養士、検査技師、薬剤師、看護師など医療スタッフからも「分かりやすく参考になる」という声が寄せられている情報誌です。



購入は  
こちらから



(偶数月26日発売)

## 症例検討会を実施しました

2022年12月17日(土)にホテルモントレ京都にて「第1回中京西部・東部医師会合同症例検討会」を、会場参加とオンライン参加のハイブリッド形式で実施しました。



「顎関節痛で発症した巨細胞性動脈炎の一例」  
糖尿病内分泌・膠原病内科 鷲田 勇輝



「EUS-FNAで診断し化学療法を実施した膵癌の一例」  
消化器内科 小川 智也



「当院脊椎外科の取り組み ～骨粗鬆症性椎体骨折を中心に～」  
整形外科 医長 阪田 宗弘



開会挨拶  
中京西部医師会会長 松尾 敏 先生

### 次回開催のお知らせ

- 2023年2月18日(土)  
右京医師会合同症例  
検討会

よろしく  
お願いいたします★



## 緩和外来で紹介患者さんの受け入れを開始しました

従来の緩和外来は、当院通院中の患者さんのみを対象としておりましたが、2023年1月より、地域の医療機関に通院中の患者さんの受け入れを開始しました。おもに症状緩和に難渋している症例などに対応します。

これまでの治療歴を参考に薬剤調整などを行いますので、治療歴を詳細に記載した紹介状をご用意ください。

ご予約は、地域医療連携係までご連絡ください。

**075-212-6186**

当科では、闘病中であっても“自分らしく生きること”を心掛けて診療に当たっています。そのためには、地域の先生方のご協力は不可欠です。今後ともよろしくお願いいたします。

### 相談窓口を開設

当院に通院歴のある患者さんを対象に、地域の医療機関からの症状緩和や困りごとの相談対応を開始しました。入退院支援室の看護師が連絡窓口となり、緩和ケアチームが対応します。



ご相談は、入退院支援室の看護師までご連絡ください。

### 緩和外来診察日 ※完全予約制

水曜日	午前(1・3・5週)	柿原
水曜日	午後(毎週)	真田

地域医療連携だより

かまんざ

vol.10 2023.1

＋ 京都第二赤十字病院 地域医療連携・入退院支援室

〒602-8026 京都市上京区釜座通丸太町上ル春帯町355番地の5

TEL 075-212-6186

FAX 075-212-6358

WEB <https://www.kyoto2.jrc.or.jp>